

## 『系図が語る世界史』企画と系図研究

——イタリア・ジェノヴァ史研究者としての立場と共に——

2024年6月22日比較家族史学会大会シンポジウム「系図と継承」

学習院大学文学部史学科 亀長洋子

### (ア) ◎『系図が語る世界史』の執筆事情

- ・歴史学研究会の組織
- ：編集部：委員長 加藤博：一橋大学名誉教授、エジプト近代社会経済史  
編集部委員：亀長洋子他
- 特集「家系図の比較文化史」『歴史学研究』743号（2000年11月号）  
→シリーズ歴史学の現在『系図が語る世界史』（青木書店、2002年）
- # 当時の歴史学研究会の雰囲気（←加藤博氏編集長抜擢）  
加藤氏の意向と企画力を反映したいくつかの特集号の一つ
- ・なぜ「系図」だったのか？～加藤博氏のコメントより
  - ・本人の思い～アラブ社会・世界を見る上での家族の問題・系譜の問題の重要性  
→家族史研究の専門家でなくとも関心の中で関わってくる問題
  - ・執筆者の心当たり、 cf. 歴研委員会でも打診
- ・編集部委員かつ執筆者だった関係で、亀長が「まえがき」を執筆。編集担当

#### # 執筆者として当時感じていたこと

系図と歴史学研究

A:系図自体を研究対象とする研究、系譜論

「図」とは限らない (ex. 系譜叙述史料) / どのような情報が「系図」か? cf. 最少数単語でも?

B:系図に含まれる人等に関する情報を利用する研究

C:既存の系図・系譜でなく、研究者が系図・系譜を作りながらなされる研究

→広義に考えるものとしての「系図」

Cf. 亀長自身の実証研究は基本 B、C。しかし時に A も関連か。

・『系図が語る世界史』所収の論考

Bを軸（←当時苦悩）に A（系図に込められた家系意識）も最後に絡む

・Cは史料分析時の基本作業（公証人文書から系譜関係を作っていく）

## (イ) ◎西洋中世史研究・中近世イタリア史研究と「系図」

- ・ 家族史ブームの時代には、君侯の存在地でビジュアル的に目立つ「系図」の紹介
  - ・ その由緒正しさを示す樹形図を紹介・分析する研究 ex. ヴェルフエン
  - ・ 封建社会論での貴族の断絶説・連続説の素材・話題として
- ・ 都市社会では雰囲気が少し異なる

中世イタリア中北部のコムーネの世界

家系を誇るカルチャーはあるが、封建貴族的な要素中心ではない

Cf. 豪族排除（フィレンツェなど）←公平性の論理

cf・ イタリアの中世家族史研究の近年の雰囲気～「系図」論としては？

大家の時代（歴史人口学、女性史、Herlihy, Klapisch-Zuber）の終焉  
地道な地域の有力者研究は継続

女性の地位の再検討（フィレンツェ モデルの再検討的結論も）

他の要素との絡み

Ex. 相続～属人主義 or 市民権・男系/女性・国家の論理を絡めて

法学者の議論と判決

## (ウ) ◎亀長自身のジェノヴァ史の研究を通じて

# Cf. 「系図と継承」を考える上でのジェノヴァ史の注目点

- ・ 長い共和制
  - ～11世紀末（コムーネの形成）～18世紀末（ナポレオン軍の侵入）
- ・ 古い家系の残存率高い・連続性
  - 中世：貴族・平民のカテゴリー
  - 近世（制度的には1528年以降）：貴族寡頭制
- ・ 拡散する民の歴史として～海洋都市国家、移民・植民文化の歴史
- ・ 「公債国家」～永久債

# 中世家族史研究における近世史料の重要性

中北部の大都市における情報源としての家系図

その都市で近世に作成され、参照の定番となるものが文書館に。

- ・ 文書館員に指導していただいた中世の情報の発見方法

～近世に作成された家系図の出典としての中世の情報

（遺言など。出典となる公証人文書明示。）

- ・ 近世の家系資料収集コレクション～多数

（ex. Lagomarsino (ASG)、Muzio、Della Cella (BCB)、市立ベリオ図書館等。）

重要文書の転写/系図/関連資料  
家ごとに情報を整理、アルファベット順  
・系図・転写・役職経歴

#### # 系図作成の動機

1. とにかく系図と人物伝（目的不明）  
Ex. Usodimare 家。非常に古い家系
2. 家系の正統性  
Ex. Torre 家、12世紀から始まる系図と人物伝  
何度も作成。ラヴァーニャ伯としての正統性？。
3. 家系出身の有名人の出自  
Ex. S. Caterina Fieschi-Adorno
4. 財産受給資格  
Ex. Vernazza 家  
冒頭に、1528年貴族名鑑以降の系図、アカイア侯の照合  
その後根拠となる公証人登記簿に言及しつつ系譜叙述長い  
在ナポリの系譜  
最後に、財産受け取り資格。  
Ex. Tancredi 家  
聖職者の遺言をめぐる親族子孫の係争。系図
5. 海外在住者の系譜確定  
Ex. Usodimare 家  
在カンディア（クレタの町）の系統の確定
6. 永久債関係での必要性～遺産取得資格確認、訴訟  
家系の継続と永久債の継続  
Ex. 拙稿「ある遺言の五百年」：含。コルシカ系統  
Ex. Vernazza 家  
サン・ジョルジョ銀行の公債債権者台帳の内容確認。  
子孫確認。男系・女系、cf.利息が出続ける仕組み→系図  
Ex. Gerolamo Vernazza の申し立て判決  
これも上記関連。同じ女系からの利息受け取り主張に対して。

#### # 今も存在する家系研究

Ex. Collana Fondazione Conservatorio Fieschi  
フィエスキ家関係研究刊行継続  
Ex. I Giustiniani di Genova~Giustiniani info.の web サイト。

広範囲に展開した家系のあらゆる情報を集めようという試み。書籍も。

おわりに

## 参考文献

### 系図関係史料

Archivio di stato di Genova(=ASG)

manoscritto alberi genealogici, 494. (系図集全体は、491-496の全6巻)

manoscritto famiglie nobili (collezione del Lagomarsino), 427, 470.

#####

特集「家系図の比較文化史」『歴史学研究』743号(2000年11月号)。

→シリーズ歴史学の現在『系図が語る世界史』(青木書店、2002年)。

歴史学研究会編『「人文知の危機」と歴史学』績文堂出版、2022年。

#####

亀長洋子「姓を変えること 中世ジェノヴァのアルベルゴに関する試論」『歴史学研究』743号、2000年。シリーズ歴史学の現在『系図が語る世界史』青木書店、2002年

亀長洋子「ある遺言の五百年 中世ジェノヴァの「家」から」『日伊文化研究』37、1999年。績文堂出版、2022年。

亀長洋子『中世ジェノヴァ商人の「家」——アルベルゴ・都市・商業活動』刀水書房、2001年。

亀長洋子「中世ジェノヴァの「家」、吉田伸之・伊藤毅編『伝統都市4 分節構造』東京大学出版会、2010年。

亀長洋子「ジェノヴァ」齋藤寛海編『世界歴史大系 イタリア 2』山川出版社、2021年。